

軍都久留米の観光案内

会期：令和7年12月2日（火）～27日（土）

久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

令和6年11月12日付で、本市が寄贈を受けた河北家資料（第6次）（A2024-012）を初公開します。

本資料群は、年代は大正3年（1914）～昭和27年（1952）、内容は市内幼稚園の卒園アルバムや市内小学校で使用された教科書、久留米の観光絵葉書など、久留米市の近現代史に関する歴史資料で、総数61点です。

今回、久留米市が軍都として発展した昭和14～16年（1939～41）の久留米の観光案内リーフレットや市勢要覧など、5点を展示します。

●No.1 福岡・久留米・大牟田・三都観光圖繪

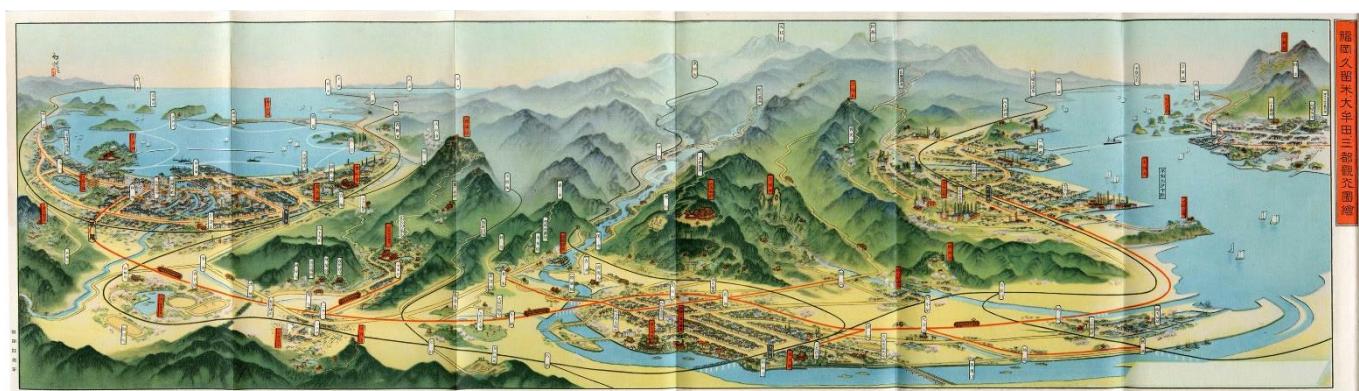
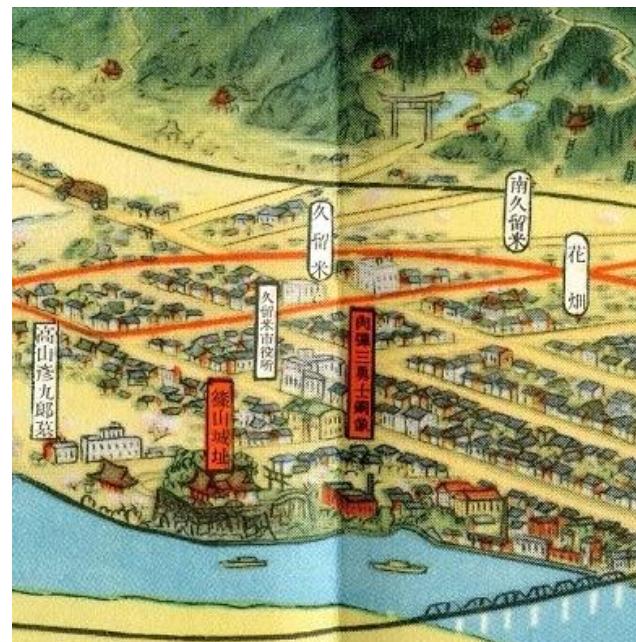
昭和14年（1939）7月15日

福岡・久留米・大牟田3市が「九鉄と緊密に結んで地方発展の一助」とするため発行したものです。昭和14年7月、「九鉄」と九州鉄道株式会社（現在の西日本鉄道）の急行電車が福岡から大牟田駅まで全通したばかりでした。鳥瞰図の作者は「大正広重」と呼ばれた吉田初三郎の高弟・前田虹映（1897～1945）です。

*画面中央の久留米市街地に「肉弾三勇士銅像」がある（右写真）。場所は、現在の久留米市役所北側駐車場内。肉弾三勇士は、第1次上海事変（1932）で、日本軍の突撃路を開くために鉄条網へ破壊筒を持って突入して自爆、戦死した3名の兵士のことを指す。

●軍都・久留米

久留米市は、明治22年（1889）4月に最初の市制施行で全国30都市とともに誕生しました。発足当時、最小規模の市であった久留米市が発展の手段として選んだのは、軍都の道でした。官民あげての猛烈な軍隊の誘致活動の末、連隊や師団の移駐が決定し、軍施設の建築ラッシュと交通網の整備が進み、地域経済は発展してきました。日中戦争が始まると、街は戦争一色となり、昭和20年（1945）8月11日、米軍の空襲を受けて市街地は焦土と化し、軍都は終戦を迎えました。



●近代久留米の観光

軍の誘致などによって経済発展に取り組んできた久留米市では、明治の終わり頃には軍関係施設をはじめとする市内の名所・旧所をめぐる観光客が増え、それらを観光スポットとして紹介する観光地図や絵葉書などが作られます。明治22年(1889)に九州鉄道(現JR)が博多～久留米間に開通すると、次第に筑後軌道や九州鉄道(のち西日本鉄道)も、久留米を発着点に運行を始めました。昭和7年(1932)10月には、久留米市観光協会が創設、省線(現JR)久留米駅前に観光案内所が設置されました。

●No.2 久留米案内

昭和15年(1940)9月15日

久留米市役所・久留米市観光協会発行

写真右=前表紙、写真左=後表紙



●No.5 久留米市観光圖

昭和16年(1941)4月20日

久留米市・久留米市観光協会発行



●No.3 九州観光圖 紀元二千六百年記念

昭和十五年(1940)十二月廿五日

日本観光聯盟九州支部発行



●No.4 久留米市勢要覽 昭和十五年

昭和16年(1941)4月20日

久留米市役所発行

写真上=前表紙、写真下=後表紙部分(肉弾三勇士のヘルメットと破壊筒を描く)

